

千波湖環境学習会を開催しました

当協会は、水戸市との協働事業として、体験しながら環境問題について考える「千波湖環境学習会」を、月1回のペースで開催しています。

9回目の12月7日は、「千波湖の湧水と歴史を探ろう」をテーマに実施しました。

最初に、千波湖の地形の変化と水戸城の歴史について、パネルを見ながら説明を受けました。

その後、親水デッキから偕楽園の好文亭付近までを、偕楽園の歴史に関するクイズラリーをしながら散策し、吐玉泉の採水をしました。「好文亭の「好文」とはどんな意味か」とか、「南崖の洞窟は何の跡か」などの問題が出されました。「好文」とは、中国の故事で「梅」を意味し、梅を愛した斉昭公が命名したそうです。「南崖の洞窟」は、「神崎岩」と呼ばれた石を笠原水源の岩樋などに使うために採掘した跡といわれていることなどを教わりました。

また、千波湖、桜川、湧水の水質をパックテストで測定し、今回の調査を含め、四季を通じて変化する千波湖の水質調査結果をまとめました。



【吐玉泉で採水の様子】



【南崖の洞窟でクイズの様子】



【野鳥観察の様子】



【観察したオシドリの様子】

10回目の1月18日は、「千波湖の渡り鳥を調べよう」をテーマに、日本野鳥の会茨城県支部の関根一広先生を講師に迎え開催しました。

最初に、千波湖に多く飛来しているカモの種類について説明を受け、カモの大きさや生態について学びました。

次に、参加した子供たちがグループに分かれ、カモの名前を当てるクイズを行いました。出された問題は、カモの一部分を白黒にした写真が渡され、答えを探してデッキ周辺のカモを見たり、図鑑を見て調べていました。次のヒントで、その一部分がカラーにしてあったため、ほとんどのグループが正解をしていました。

この後、千波湖の東側と千波公園の斜面林を歩きながら野鳥の観察に出かけました。ビオトープでは、ヨシの合間にあまり見ることのできないオシドリのつがいが観察でき、参加者は順番に望遠鏡のレンズを覗いては、感動の声をあげるなど、大変満足していました。

今年度の学習会は、次回2月15日の「桜川の卵から孵化したサケの稚魚を放流しよう」で終了となります。千波湖好文カフェ前、親水デッキにて12時30分頃から受付を開始しますので、ご興味のある方はぜひお越しください。